

いちご「スカイベリー」の品質向上技術の確立

要約

摘花の有無が「スカイベリー」の果実糖度や生産性に対する影響について調査した。糖度は2次腋花房までは、5花程度に摘花することで、放任に比べ平均糖度が高まり花序毎のバラツキは少なくなった。しかし、摘花することで生育はやや早まるものの生産性は低下した。

○ 展示のねらい

平成27年度の河内管内における「スカイベリー」は26名、183aの栽培が行われているが、高級ブランドとして普及拡大を図るためには、果実品質の向上が最大の課題である。

そのため、平成28年度は食味の安定を目指し、摘花方法について検討するとともに、スカイベリー導入による経営改善効果について実証する。

○ 主な成果

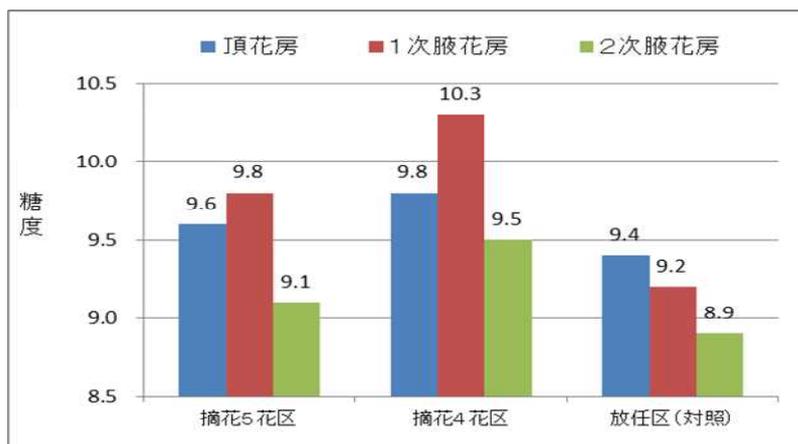


図 花房毎の平均糖度

摘花をすることで糖度が向上することが確認できたが、収量は放任区（対照）より低くなった。

「スカイベリー」を高級ブランドとして販売するうえで、糖度の向上は必要不可欠である。しかし、摘花作業を普及するには、収量の減少分を単価でカバーできるよう、糖度向上に対する付加価値を付けて販売し、放任区（対照）と同等以上の販売金額が達成できる販売方法の検討が必要と思われる。

○ 今後の方向性

- ・ 花房整理を含めた摘花方法の再検討
- ・ 摘花を実施した場合の販売方法の検討

実施機関：河内農業振興事務所経営普及部 実施場所：宇都宮市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315